

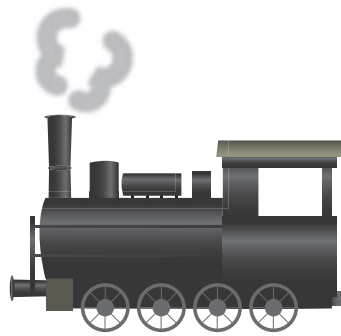
JR九州社員が福祉研修

～実体験で見えてくるもの～

九州旅客鉄道(株)久留米鉄道事業部では、平成29年1月より毎月1回社員を対象に福祉研修を実施しています。10月24日には、障害者・高齢者疑似体験及び介助訓練がJR久留米駅と荒木駅で行われました。この日は、アイマスクを使った障害者疑似体験や、高齢者疑似体験セットを装着して電車に乗り、実際に自分自身で障害や加齢による不自由さを体験しました。体験した社員からは、「普段何気なく使っていた階段が、高齢者疑似体験セットを装着するととてもきつかった」「見えないとちょっとした段差が怖い。介助する人がいないと自分は動けないと思う」などの感想がありました。お客様に安心して利用していただくため、積極的に声かけを行ない、サポートすることの大切さを学びました。

～快適にすごしていただくために～

この福祉研修は、九州旅客鉄道(株)、西日本鉄道(株)、福岡市交通局の3社で取り組まれている『声かけサポート運動』の一環として行われました。この『声かけサポート運動』は、困っている人に声かけを行い、サポートすることで電車や駅をすこしやさしい空間にしていこうとするものです。



高齢者疑似体験

赤裏 盈子さん

「私には自分の楽しみでやっていただけ、認知症の家族を介護している人が家族の会へ参加して、心がほっとできるような仕上がりになっただけなの」とおっしゃる赤裏さん。

昨年10月26日、平成29年福岡県社会福祉大会(主催:県社会福祉協議会、県共同募金会)において、認知症の人とその家族の支援を長年続けてこられた功績により、南町の赤裏盈子さんが県社会福祉協議会会長感謝状を受賞されました。

久留米市からボランティア活動での個人授賞は、平成24年以来5年ぶりです。

現在、特定非営利活動法人『にっこにこ会』理事の赤裏さんは、認知症がまだ「痴呆」とよばれていた平成7年に『にっこにこ会』の前身である、「久留米地区痴呆性老人を抱える家族の会」を立ちあげられ、以来20年以上、認知症の人と家族に寄り添って支援活動を続けられています。

認知症の人と家族に寄り添って...

赤裏 盈子さん

県社会福祉協議会会長感謝状を受賞

「まだまだひとりで、悩み苦しんでいる人がたくさんいると思います」と赤裏さんは話されました。

※『にっこにこ会』では、認知症の家族を介護している人からの相談や、定例会や学習会・集いなどを開催しています。

「どんなことでもいいのでどうぞ気軽に電話ください。」とのことでした。

『にっこにこ会』への問い合わせ
TEL 080039082940